有害物質使用に関する事項（動物実験計画書用）

１．有害物質の名称

２．有害物質の区分（該当箇所にチェック）

□発がん性物質（国際がん研究機関による分類）

　　　　　　□グループ１（ヒトに対して発がん性がある）

　　　　　　□グループ２Ａ（ヒトに対しておそらく発がん性がある）

　　　　　　□グループ２Ｂ（ヒトに対する発がん性があるかもしれない）

□有機溶剤中毒予防規則(昭和47年労働省令第36号)で規制されている物質

□特定化学物質障害予防規則(昭和47年労働省令第39号)で規制されている物質

□水質汚濁防止法(昭和45年法律第138号)で規制されている物質

３．人体への有害性、環境への影響

４．有害物質を使用する実験の目的（動物実験計画のうち、当該実験に関わる部分を記入）

５．使用方法、頻度、総使用量

６．動物に使用した有害物質について体内への蓄積の有無、代謝、排泄および代謝・排泄後の有害性の有無、（該当するところにチェック）

体内蓄積：□ 有　□ 無　□ 不明

代謝および排泄：□ 肝代謝　□ 腎排泄　□ 不明

代謝・排泄後の有害性：□ 有　□ 無　□ 不明

飼育室やケージ内の蓄積：□ 有　□ 無　□ 不明

動物体内、飼育室やケージ内で蓄積がある場合はその処理方法

７．従事者等の暴露防止策並びに暴露した場合の対処方法（具体的に）

８．飼育室及び実験室の汚染防止策並びに汚染した場合の対処方法(具体的に)